

Q

血液検査は何歳からできますか？

A

食物アレルギーの血液検査は通常特異的IgE抗体という抗体を図るものです。必要性に応じて生後1日でも測定いたしますが、測定する目的によって測定時期が異なるため、一概に何歳から測定できるかといったことは決められません。かかりつけの医師とよく相談いただく必要があります。

Q

血液検査の結果では陽性になっていても実際には症状としてあらわれたことがない時、除去食にした方が良いのか、しなくて大丈夫なのか？

A

血液検査とは特異的IgE抗体の測定のことかと思われます。特異的IgE抗体はアレルギーでなくても上昇することがあり、この値で食物アレルギーの有無を確認することはできません。十分に食べても症状が出ない食物については、特異的IgE抗体の値が上昇していても除去する必要はありません。

**Q**

喘息、ダニ等のアレルギー体質、春から小学校入学なので特に気を付けなければならない事など。

**A**

小学生からのアレルギーの対応ですが、まずは皮膚の状態をきれいに保つようによしてください。乾燥などがあつたり肌が荒れるようであればスキンケアが必要です。また、ダニを減らすためには布団を干した後に掃除機をかける(20秒/1平方メートル以上の時間をかけて)、ぬいぐるみを減らす、観葉植物を置かない、畳の上にじゅうたんを引かないなどの対策が必要です。

Q

誤ってアレルギーの原因になる食物を飲み込んでしまった時にエピペン等がない場合どのような対応をすべきですか。

A

抗アレルギー薬などの薬を持っていればそれを飲ませてもよいと思います。症状が出ないか2時間以上観察して、症状が出るようなら速やかに医療機関に受診しましょう。

Q

アトピー性喘息の治療期間について

A

アトピー性喘息とはIgE依存性喘息のことと考えられますが、これは1年ほどで改善する方もいらっしゃいますが、治らないため、長期間にわたって付き合っていく必要がある方もいらっしゃいます。

Q

遺伝するのか。

その場合、何才頃から発症するのか。発症を抑える(または遅らせる)ことはできるか。

A

食物アレルギーやアトピー性皮膚炎は早い人だと生後1日から発症します。これらの発症を減らすためには、適切なスキンケアと離乳食のスケジュールを遅らせないことが必要です。すでに症状が出ている場合はかかりつけの医師とよく相談してください。

Q

アトピーは小児科で指摘されたのに対し、皮膚科ではアトピーじゃないと言われたので、その定義について知りたい。

A

日本皮膚科学会のアトピー性皮膚炎の診断基準では、1) 掻痒, 2) 特徴的皮疹と分布, 3) 慢性・反復性経過の3基本項目を満たすものとされています。乳児であればかゆみがある”湿疹”で左右対称、頭から体、手足に広がるものということになります。

Q

調味料などで(一部に小麦)などと表示されている物はアレルギー反応が出にくいと聞きましたが本当でしょうか。

A

(一部に小麦)という表記はどの程度小麦が含まれているかわかりません。加工の仕方もわからないため、多くの小麦が、症状が出やすい状態で含まれている可能性もあります。アレルギーの症状を出しにくいということとはできません。

Q

アレルギー症状（反応）がある時に、少しずつ食物を与えていけば耐性が備わるものか。それは年齢にもよるものか。臨床的に知りたいと思います。

A

一概にすべての食物で同じような経過になるわけではありません。一部の食物は症状がでないように食べているとアレルギーが改善することがあります。また、食べ続けても改善することがないものもあります。どのように対応していくかはかかりつけ医とよく相談していただく必要があります。